



ペガルタ仙台サッカー教室開催 元Jリーガーと一緒にサッカー楽しむ

サッカーJ2のペガルタ仙台によるサッカー教室が6月23日、幼稚園で行われた。

長年同球団で活躍した梁勇基クラブコーディネーターと富田晋伍クラブコミュニケーターが訪れ、園児たちと一緒に体操やボールを使った遊びで体を慣らしたあと、チームに分かれて試合形式のゲームを行った。ゲームでは必死にボールを追いかけてゴールに向かう園児たちの姿が見られ、園全体に楽しそうな声が響いていた。

ペガルタ仙台は、本院とのスポンサー契約に基づいて2021年から幼稚園でサッカー教室などを実施。中心選手の郷家友太さんが本院幼稚園出身という縁から、2023年には本人が幼稚園を訪れ園児たちと交流を深めた。今年度は今回のサッカー教室の他に、園児と保護者をホーム試合に招待する取り組みも予定されている。



また学校法人東北学院とペガルタ仙台は、これまで大学との間で締結していた包括連携協定を発展させるかたちで、2023年に新たに協定を締結。その一環として今年3月までに大学泉キャンパス内に練習グラウンドやクラブハウスを整備し、球団の新たな拠点となっている。

七月二十六日に中学校と高等学校、八月一日と二日に高等学校が夏季オープンスクールを開催し、多くの小中学生と保護者が来校した。例年人気の高等学校は、参加希望者が多いため三日間に分けて実施された。

その後、キャンパスツアーや授業体験、部活動見学などが行われた。キャンパスツアーでは在校生が案内役を務め、参加者

は熱心に校内を見て回った。個別相談ブースも設けられ、入試や学校生活、部活動などについて質問する姿も見られた。来場者は一日を通して活躍する在校生の姿に触れ、学校生活を身近に感じる事ができた。

同校は今後、十月と十一月にも秋季オープンスクールを開催する予定。夏季が学校生活の紹介を目的としていたのに対し、

東北学院中学校・高等学校 夏季オープンスクール開催

では、礼拝堂での全体会からスタート。参加者は礼拝出席や生徒による学校紹介を通して、実際の学校生活に触れた。

具体的説明が中心となる。

秋季は入試に関する

第107回 全国高等学校野球選手権 宮城大会



—33年ぶり決勝進出—

強豪・仙台育英に挑む

第百七回全国高等学校野球選手権宮城大会は七月二十八日、楽天モバイルパーク宮城で決勝が行われ、東北学院榴ケ岡高等学校が強豪・仙台育英学園高等学校と対戦した。創部四十年目で三十三年ぶりに二度目の決勝進出

を果たした。ノースードから五試合を勝ち抜いた榴ケ岡。その快進撃を支えたのは、五試合中三試合が逆転勝利という終盤での勝負強さだ。二回戦のシード校・石巻戦では、三点を追う九回に連打で一挙四点を挙げるなど、粘り強さを見せた。

決勝では、佐々木健斗投手と佐々木大翼捕手のバッテリーが、仙台育英の強力打線に対し、強気の配球で四回までわずか一失点に抑えた。しかし、五回以降捕まり、惜しくも初優勝には届かなかった。

試合後、佐々木投手は「自分がもつと抑えられれば、ここまで連れてきてくれた仲間感謝したい」と悔し

今年の全国高校サッカー選手権大会で三十七大会ぶりの出場を果たし、四十二年ぶりベスト16という快挙を成し遂げた東北学院高等学校サッカー部。この活躍を受け、卒業生や保護者から寄せられた寄付金の一部を活用し、同校サッカー場の人工芝が全面リ

援いただいた方々からの「次世代に役立つ記念品」という声に応えた形だ。今年で創部百周年という節目を迎える同部にとって最高の贈り物となった。

橋本俊一監督は「公式戦に近い環境で練習できている。県大会二連覇そして全国大

中高サッカー場 人工芝リニューアル



会ベスト16を目標に練習していきたい。ご支援いただいた皆さまの思いを受け継ぎながら、大切に使用していきたい」と話した。

新しい人工芝での初練習に臨んだ同部キャプテンの菅崎翼さん(三年)は「芝が立って

援がとても力になり、支援も励みになった。これからプレーで恩返ししていきたい」と感謝と今後の意気込みを語った。

記念すべき年を迎え、新たな環境で練習に励む同部のさらなる飛躍が期待される。



木貴紀監督は「これまでこられたのはエースの佐々木がけがから復活したのが大きい」と話した。

高校野球では二〇二一年に東北学院高等学校が甲子園に出場したことが記憶に新しいが、今回の榴ケ岡高校の躍進を機に今後の両校の活躍がますます期待される。

七月九日にホーイ記念館ラニーニング・コモンズで行われた

締結式で、大西晴樹学長は「新たな地方創生のモデルにした」と意欲を述べた。

また、「地域課題の解決を通して、加美町を『第二の故郷』だと考

える学生が出てきて

東北学院大学・中新田高等学校・加美町と 包括連携協定締結

地域活性化に向け人材を育成する取り組み

- 1 地域が抱える課題の解決に向けた取組に関すること
- 2 加美町の児童・生徒及び本学学生が進める地域課題解決に資する探究活動ならびに継続的な研究活動に関すること
- 3 急速な時代の変化に対応する取組(DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進など)に関すること
- 4 地域で行われている社会活動全般に関すること



写真左から
加美町公認キャラクター「かみっこ」、石山敬貴加美町長、大西晴樹学長、早川健次中新田高等学校長

東北学院大学祭

LINK

五橋祭(五橋キャンパス) 六軒丁祭(土樋キャンパス)
10月13日(月) 10月25日(土)・26日(日)

公式Instagram

公式X

公式HP

皆様のご来場お待ちしております！

元職員(中学校・高等学校教諭、評議員) 大木 駿一郎 逝去

元職員(中学校・高等学校教諭、評議員)の大木駿一郎殿には、二〇二五年七月十三日に逝去された。八十五歳。
大木殿は、一九六三年に東北学院高等学校教諭として採用され二〇〇五年に退職された。